

高等学校 令和8年度（3 学年用） 教科 国語 科目 文学国語

教 科： 国語 科 目： 文学国語 単位数： 2 単位

対象学年組： 第 学年 1 組～ 7 組

教科担当者： 柳 楽

使用教科書： （ 「文学国語」東京書籍（文国701） ）

教科 国語 の目標：

- 【知 識 及 び 技 能】生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。
- 【思考力、判断力、表現力等】深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
- 【学びに向かう力、人間性等】言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

科目 文学国語	の目標：
【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。
	【学びに向かう力、人間性等】
	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域				評価規準	知	思	態	配当 時数
			話	・聞	書	読					
1 学 期	A 単元 評論 「文学のふるさと」 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	・具体例と筆者の主張との関係に注意して評論を読み、文学のよりどころについて理解を深める。 ・本文の語句の意味や漢字を確認する。（一人1台端末の活用） ・作者について調べる。（便覧の活用） 1 具体例の三作品とそこから導かれている筆者の考えに注意しながら、本文を通読する。（手引き1） 2 「アモラル」という視点から、筆者が「赤頭巾」「狂言』『伊勢物語』の作品のどこに着目しているか整理する。（手引き2） 3 「赤頭巾」について、筆者が「切ない悲しさ、美しさ」を感じ理由を読み取る。（手引き3-1） 4 「狂言」のモラルについて、筆者の捉え方を読み取る。（手引き3-2） 5 『伊勢物語』について、筆者が美しさやむごたらしさをどう捉えているか読み取る。（手引き3-3） 6 筆者が、アモラルな物語をそれほど高く評価しないという理由を読み取る。（手引き3-4） 7 文学のモラルや社会性に注目しながら、「文学のふるさと」を筆者がどのように考えているかまとめる。（手引き4）	○	○	○	○	【知技】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、作品の内容や解釈を踏まえ、人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を深めている。 【主】 粘り強く具体例と筆者の主張との関係に注意して本文を読み、学習課題に沿って文学のふるさとについて、筆者の考えを理解し、まとめようとしている。	○	○	○	10
	定期考查							○	○		1
	B 単元 小説 「山椒魚」 【知識及び技能】 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。 【思考力、判断力、表現力等】 深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。 【学びに向かう力、人間性等】 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。	・登場人物の心情を理解しつつ、現代社会に生きる私たちが抱える問題について考える。 ・本文の語句の意味や漢字を確認する。（一人1台端末の活用） ・作者について調べる。（便覧の活用） 1 井伏鱒二や「山椒魚」について、教科書の作者紹介などを参考にして、知っていることを発表する。 2 山椒魚の心情や行動に注意しながら本文を通読し、あらすじをつかむ。（手引き1） 3 第一段を読んで、語句や表現に留意しながら、岩屋に閉じ込められた山椒魚の置かれた状況やその心情を読み取る。（手引き2） 4 第二段を読んで、岩屋の内外の動植物の様子についてまとめ、それぞれに対する山椒魚の気持ちを整理する。（手引き3-1・3-2・4-1） 5 第三段を読んで、小えびの侵入に伴う山椒魚の心境の変化と、その後の山椒魚の行動を読み取る。（手引き4-2） 6 第四段を読んで、岩屋の外に出られない山椒魚が、外に出られないことを嘆き、岩屋の外の世界で遊ぶ小動物の様子を、感動の瞳で眺める様子	○	○	○	○	【知技】 ・言葉には、想像や心情を豊かにする働きがあることを理解している。 ・情景の豊かさや心情の機微を表す語句の量を増し、文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解し使っている。 ・文学的な文章を読むことを通して、我が国の言語文化の特質について理解を深めている。 ・人間、社会、自然などに対するものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。 【思判表】 ・「読むこと」において、文章の種類を踏まえて、内容や構成、展開、描写の仕方などを的確に捉えている。 ・「読むこと」において、文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察している。 ・「読むこと」において、作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めている。 【主】 粘り強く登場人物の心情を把握し、学習課題に沿って作品に込められた寓意について、自分自身の生き方や考え方に触れながら文章にまとめようとしている。	○	○	○	12

[illegible]

